

熊本市二本木遺跡群第97次調査区出土の古代・中世人骨

松下真実*・松下孝幸**

【キーワード】：熊本県、古代人骨、中世人骨、土坑墓、井戸跡、溝跡、遺棄、保存不良

はじめに

熊本市中央区春日三丁目に所在する二本木遺跡群第97次調査区の発掘調査が駅ビル建設に伴って2018（平成30）年度におこなわれ、古代と中世に属する人骨が出土した（熊本市教育委員会、2021）。

新幹線建設工事と熊本駅周辺整備事業に伴う発掘調査によって、熊本市の二本木遺跡群からは古代と中世に属する人骨の出土例が増加している。



調査区遠景

古代人骨については、熊本市が調査をおこなった第18次調査区、第28次調査区、第31次調査区、第32次調査区L地点、第35次調査区、第40次調査区F地点、第41次調査区、第49次調査区、第50次調査区、第97次調査区、第104次調査区、第105次調査区、第114次調査区（松下真実、2014）のほかに、熊本県教育委員会が実施した二本木遺跡群（市電敷地）、二本木遺跡群（さつま荘跡）でも古代人骨が出土している。二本木遺跡群以外では、新屋敷遺跡、古町遺跡群第5次調査区、上代遺跡群第5次調査区、大江遺跡群（学苑住宅）、大江遺跡群63次調査区、同第97次調査区、江津湖遺跡群、桑鶴遺跡（06-Ib区）からも古代人骨がみつかった。

二本木遺跡群第18次調査区からは2003（平成15）年度の発掘調査で古代に属する人骨が1体（SD-024、性別・年齢不明）出土した（松下、2005）。この人骨は溝から出土した四肢骨の骨片にすぎなかった。第28次調査区では2006（平成18）年度に古代末の人骨が2体（ST-01、ST-02、共に性別・年齢不明）出土したが、1体（ST-01）は大腿骨片と歯冠のみで、もう1体（ST-02）は四肢骨の骨片のみであった（松下・他、2008a）。2007（平成19）年度から2009（平成21）年度にかけて実施された第31次調査では中世人骨とともに古代末（12世紀）に属する人骨が1体（Q区・ST-2035、性別・年齢不明）出土したが、頭蓋片などの骨片と遊離歯冠片が残存していたにすぎなかった（松下・他、2012a）。同年度に実施された第32次調査区L地点の調査では井戸跡から9世紀後葉に属する1体の男性骨（SE-03）が検出された。残存していたのは頭蓋と咬耗が強い遊離歯のほか、前腕の骨と推測される骨が認められたことから、廃棄された井戸跡の窪みが埋葬坑として利用された可能性が推測される（松下・他、2009a）。

第40次調査区F地点の発掘調査は2008年度（平成20年度）におこなわれ、古代人骨が2体出土した。1体（ST-01、女性・壮年）は9世紀から中世にかけての人骨で、膝関節を屈曲していた可

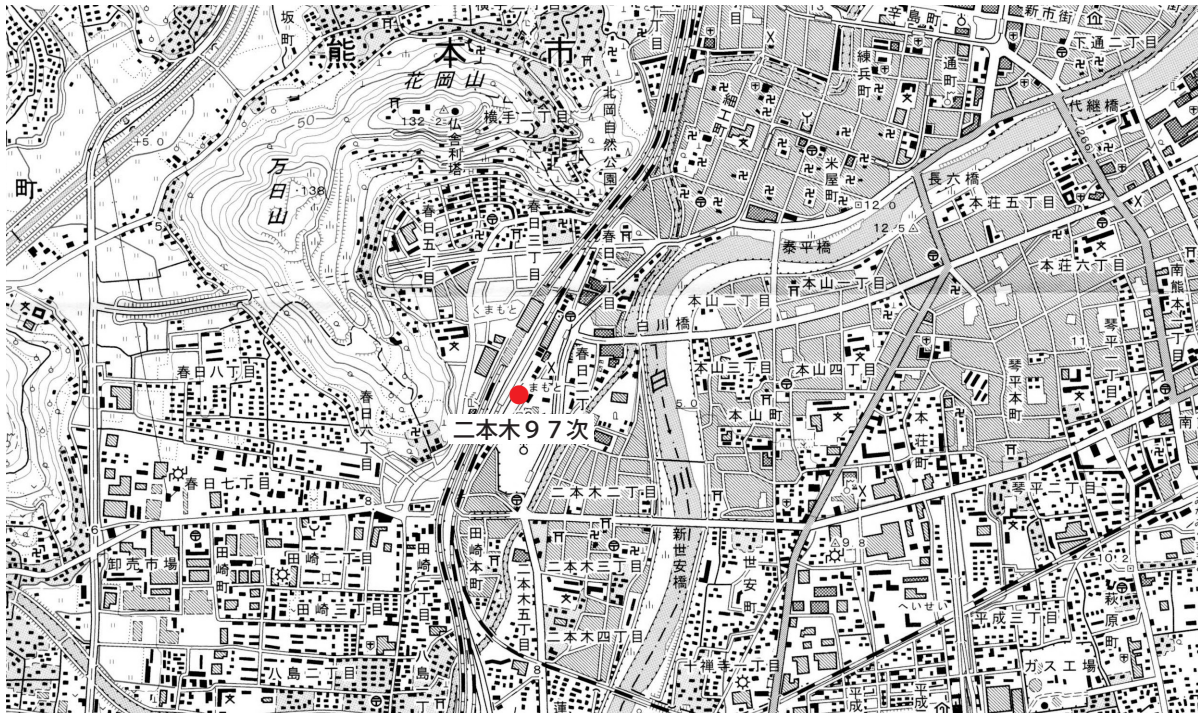
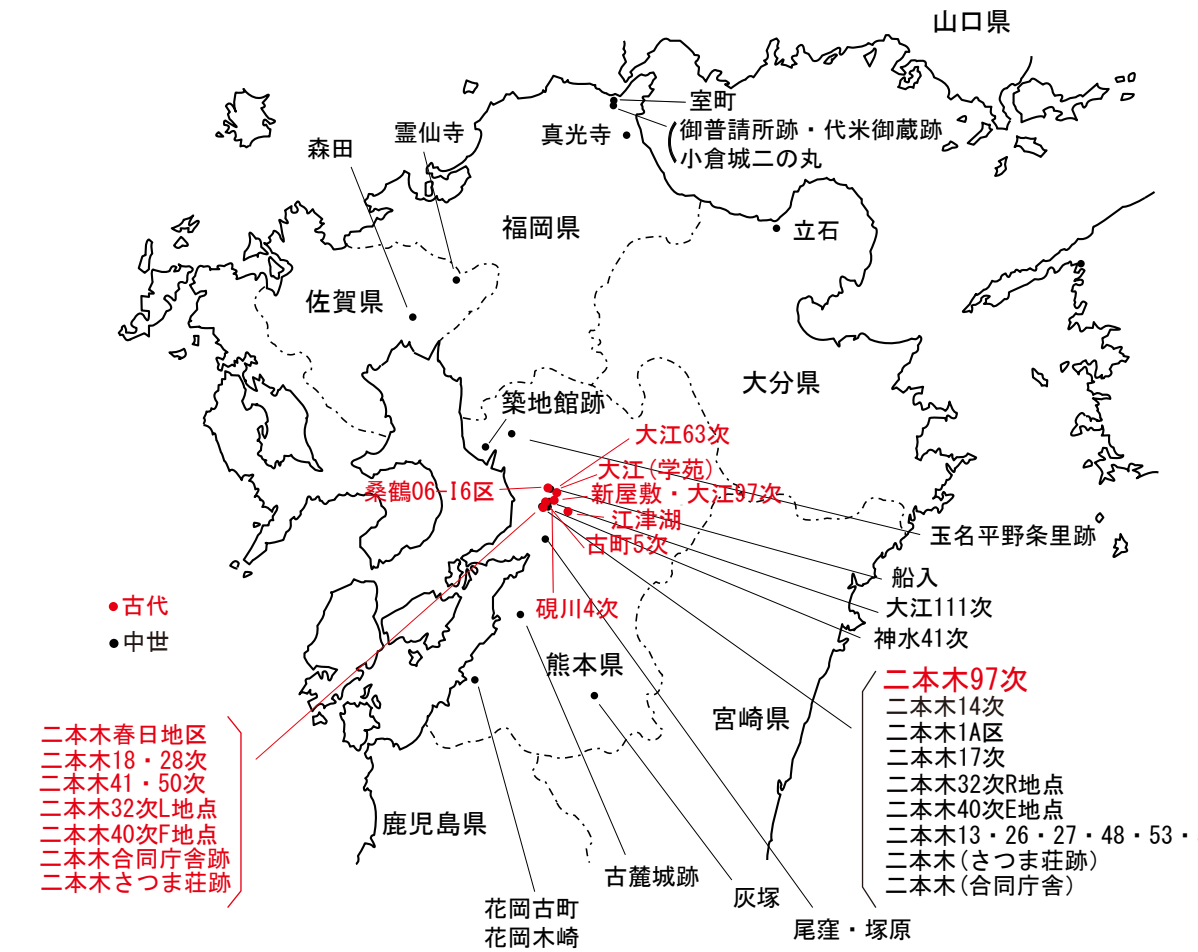


図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the place 97th excavation, Nihongi sites, Kumamoto City, Kumamoto Prefecture)

能性がある。もう 1 体 (ST-03、女性・壮年) は 10 世紀末から 11 世紀の古代に属する人骨で、頭蓋と遊離歯が残存していた。埋葬遺構は木棺と推測されており、埋葬姿勢は仰臥伸展だったと思われる。特筆すべきは、頭蓋が甕内から検出されており、両側の足も左右それぞれ甕に入れられていた可能性が高いことである。また、棺外副葬品として 8 枚の土師皿と滑石製の連環が検出されている (松下・他、2010a)。同年には第 41 次調査区の発掘調査がおこなわれ、11 世紀の古代末に属する人骨が 1 体 (1 号土坑墓人骨、男性・壮年) 出土した。埋葬姿勢は仰臥伸展で、残存量は多く、頭型は長頭型で、低顔ではあるが、下顎骨は大きく、歯槽性突顎傾向が認められた (松下・他、2010b)。

2009 (平成 21) 年度におこなわれた第 49 次調査区からは 10 世紀半ばから 11 世紀前半頃の古代人骨が 2 体出土している。1 体 (ST-100、女性・年齢不明) は仰臥伸展葬で、人骨の保存状態は悪く、細くきゃしゃな大腿骨が残存していた。もう 1 例 (SI-122、性別・年齢不明) はカマド跡から検出された遊離歯冠である (松下・他、2012b)。

同年度に実施された第 50 次調査区の調査でも 10 世紀半ばから 11 世紀前半の古代に属する人骨が 2 体出土している。1 体 (ST-160、男性・年齢不明) は保存状態が悪く、その特徴は不明であるが、もう 1 体 (ST-180、男性・壮年) は、仰臥伸展葬で、上腕骨と大腿骨は太く、上腕骨と大腿骨上部は扁平で、大腿骨の骨体両側面の発達も比較的良好であった。遺存状態は比較的良好で、ほぼ全身の骨が残っていた (松下・他、2011)。

熊本県教育委員会が実施した二本木遺跡群の調査でも古代人骨が出土している。2005 (平成 17) 年度の二本木遺跡群 (合同庁舎跡) の調査では 12 世紀初頭の人骨が 1 体 (ST-40、男性・壮年、白磁碗 2 個、白磁皿 1 枚、土師皿 2 枚、鉄製小刀 1 振りを伴う) 出土している (松下・他、2010c)。埋葬姿勢は仰臥で、膝関節は左右とも強屈していた。2008 (平成 20) 年度に熊本市教育委員会が調査をおこなった二本木遺跡群第 35 次調査区でも仰臥で、膝関節を屈曲した古代人骨が黒色土器を伴って出土している。第 35 次調査区の例も 11 世紀後半から 12 世紀初頭に比定されており、古代末には膝関節を伸展して埋葬する方法と屈曲して埋葬する方法の両方が存在したようである。

ST-40 の頭型は長頭に近い中頭型と思われる。四肢骨は太くて頑丈で、上腕骨と脛骨には扁平性は認められないが、大腿骨体上部や腓骨は扁平である。大腿骨は、粗線と骨体両側面の後方への発達はきわめて良好である。また、脛骨はとくに径が大きく、ヒラメ筋線の発達も良好である。豪華な副葬品を伴ったこの男性は、四肢が屈強で、逞しい体格をしていたようで、これまで形質的特徴がよくわからなかった平安末期の人々の特徴の一端を明らかにできた。

2005 (平成 17) 年度と 2006 (平成 18) 年度におこなわれた二本木遺跡群春日地区第 6 次調査では、9 世紀～11 世紀に属する 11 体 (男:5、女:1、不明:3、幼小児:2) の古代人骨が出土した (松下・他、2012c)。11 体のうち 2 体 (壮年・男性と小児) は井戸跡 (SE033) から検出されたもので、頭蓋のみであるが、ほかの 9 体は埋葬状態で検出された。2 基 (ST001・男、ST002・男) については埋葬遺構は木棺と推測されているが、その他の 7 基は土坑墓である。人骨の遺存状態は悪く、被葬者の形質的特徴は不明であるが、男性 1 例 (井戸跡から出土、SE033・男) については頭蓋長幅示数を算

出すことができた。その示数値は 75.00 で、頭型は長頭型に近い中頭型であった。なお、熊本市が調査した第 32 次調査区 L 地点からも井戸跡から人骨（SE-03、男、埋葬人骨）が検出されている。

2008（平成 20）年度の二本木遺跡群（市電敷地）における発掘調査では 10 世紀代の人骨が土坑墓から 3 体出土した（松下・他、2012a、2012b）。3 体のうち 1 体（S-047、女性・壮年）は側臥屈葬で、もう 1 体（S-058、女性・年齢不明）は仰臥伸展葬である。残りの 1 体（S-005、男性・年齢不明）も仰臥伸展葬である。女性は 2 体とも鼻根部が扁平で、1 体（S-058）には歯槽性突顎の傾向がみられた。1 体（S-057）は、四肢骨は細く、脛骨は扁平で、身長は 145.78cm（Pearson、左）で、もう 1 体（S-058）は上腕骨は細いが、大腿骨と脛骨はやや太く、脛骨は扁平で、身長は 144.81cm（Pearson、右）で、女性は 2 体とも低身長である。男性骨（S-005）は頭蓋の一部、遊離歯、左大腿骨体が残存していたにすぎない。

また、2008 年度の二本木遺跡群（さつま荘跡）の調査でも 10 世紀代の人骨が 1 体（S-005、男性・熟年）検出されているが、この人骨は古代人骨としては珍しく保存状態が良好で、特筆すべきは、大腿骨が著しく太く（骨体中央周 98mm、右）、しかも推定身長が 164.97cm（Pearson 式）の高身長であること、大腿骨には縄文前期人なみの柱状性（骨体中央断面示数 125.93〔右〕、145.83〔左〕）が認められたことである（松下・他、2012c）。古代人骨の保存状態は一般的に悪いものが多く、形質所見を明らかにすることができるものはきわめて少ないので、このような特徴が古代人の普遍的な時代的特徴であるのかはまだ明確ではない。また副葬品として、土師器が 4 点（うち黒色土器 1 点）と鉄製品 2 点伴っていた。

2009（平成 21）年度におこなわれた二本木遺跡群春日地区第 11 次調査区の発掘調査では、1 区から 2 体、3 区からは 1 体の古代人骨が出土しており、2010（平成 22）年度には二本木遺跡群春日地区第 13 次調査区 4 区からも古代の人骨が 1 体出土している。

二本木遺跡群ではこれらのほかに 2019（令和 1）年度におこなわれた第 104 次調査区と第 105 次調査区でそれぞれ 1 体の古代人骨が出土している。

二本木遺跡群のほかに、新屋敷遺跡の 2009（平成 21）年度の発掘調査で 8 世紀から 9 世紀頃の古代に属する熟年の男性人骨（ST-01）が 1 体出土している。埋葬遺構は土坑墓で、埋葬姿勢は仰臥伸展である。この男性は、この時代としても、また地域的にみても、きわめて珍しい超短頭型（頭蓋長幅示数：95.03）であった。また上腕骨は太く、脛骨は扁平で、大腿骨は細いが、骨体中央断面示数が 126.09 と、縄文人なみの示数値を示し、柱状性が認められ、推定身長値は 165.34cm と、高身長であった（松下・他、2013a）。大腿骨と身長値の特徴は本例の他に上述している二本木遺跡群（さつま荘跡）出土の古代人骨（S-005、男性・熟年）にもみられた。また、新屋敷遺跡 6 C 区の発掘調査が 2011（平成 23）年度と 2012（平成 24）年度におこなわれ、古代人骨が 9 体（男：6、不明 3）

出土している(松下・他、2016a)。観察ができた2例(ST-01、ST-04)は長頭型で、顔面の計測ができた1例(ST-09)は低顔で、歯槽性突顎が認められた。また、大腿骨は大きそうなもの(ST-10)と細いもの(ST-09)とが認められ、身長も160.83cmのわずかに高身長例(ST-04)と150.87cmの超低身長例(ST-06)とが存在した。

その他に、2005(平成17)年度には、大江遺跡群第97次調査区から9世紀後半の木棺墓が1基検出され、仰臥伸展葬の男性人骨(ST-01)が出土している(松下、2007a)。この男性は下顎骨の高径が高く、大腿骨は太く、粗線の発達も良好であった。同じ年度に調査がおこなわれた古町遺跡第5次調査区では10世紀初頭に属する男性人骨が多くの副葬品(土師器など)を伴って出土したが、人骨の保存状態は著しく悪いものであった(松下、2007b)。2016(平成28)年に実施された上代町遺跡群第5次調査区では古代人骨が1体と、古代から中世にかけての人骨が1体出土している(松下真実・他、2022)。

古代においては、遺体を火葬することもあったようで、熊本市でも火葬骨が検出されている。大江遺跡群(学苑住宅)(松下、2006)、桑鶴遺跡(06-I b区SI-01)、大江遺跡群第63次調査区(松下・他、2016)、江津湖遺跡群では平安時代の火葬骨が出土している(松下・他、2022)。

熊本県での中世人骨の出土例としては、熊本市の二本木遺跡群第8次調査区、第13次調査区(松下、2007c)、第14次調査区、第17次調査区(松下・他、2016b)、第26次調査区(松下、2007d)、第27次調査区(松下、2007e)、第28次調査区(松下・他、2008a)、第31次調査区、第32次調査区R地点(松下・他、2013b)、第40次調査区E地点(松下・他、2012d)、第40次調査区F地点(松下・他、2010a)、第48次調査区(松下・他、2016c)、第53次調査区、第56次調査区(松下・他、2013a)、第68次調査区(松下、2014a)および熊本県教育委員会が調査した二本木遺跡群(市電敷地)(松下・他、2012a)、二本木遺跡群(さつま荘跡)(松下・他、2012c)、二本木遺跡群春日地区第11次調査区、二本木遺跡群合同庁舎区、二本木遺跡群1A区の他に、熊本市内の大江遺跡群第111次調査区(松下・他、2009b)、神水遺跡第41次調査区(松下・他、2008b)、上高橋遺跡、南新宮遺跡、花岡山・万日山遺跡群、松山遺跡(旧植木町)、渡鹿遺跡群第7次調査区、桑鶴遺跡第2次調査区、硯川遺跡、尾窪中世墳墓群(旧城南町)(内藤、1973)、塚原中世墳墓(旧城南町)(内藤、1975)の例がある。

その他、熊本県内では玉名市の玉名平野条里跡(松下・他、2014b)、大津町の中島宝満鶴・岩坂葉柳遺跡(松下・他、2013d)、芦北町の花岡古町遺跡(松下・他、2013b)と花岡木崎遺跡(松下・他、2013c)、荒尾市の浄業寺(永井、1965)と杉谷遺跡(内藤・他、1978)、宇土市緑川(故松野・他、1970)、八代市興善寺町馬場遺跡(松下、1980)、あさぎり町(旧深田村)灰塚遺跡(松下、2001)、合志市(旧西合志町)船入遺跡(松下、2004)などの例もある。

尾窪から出土した中世人骨は比較的保存状態も良好で、神奈川県鎌倉市の材木座遺跡でみられた中世人骨の特徴である、長頭性、鼻根部の扁平性、歯槽性突顎がみられることがわかり、長頭性、鼻根

部の扁平性、歯槽性突顎は関東地方だけにみられる地域的特徴（地域差）ではなく、汎日本的な中世人の時代的特徴（時代差）であることを示した貴重な例である。

2006（平成18）年に花岡古町遺跡から出土した中世人骨は、中世としては非常に珍しい坐位の姿勢で埋葬されていた。2005（平成17）年におこなわれた花岡木崎遺跡の発掘調査では5体の中世人骨が出土したが、男性は高・狭顔、高身長という注目すべき所見が得られている。

今回出土した人骨の保存状態はあまりよいものではなかったが、現場で詳細な観察をおこない、取り上げることができた人骨については人類学的観察と計測をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資 料

本遺跡から検出されたのは8体の古代人骨と2体の中世人骨の合計10体である（表1）。人骨の保存状態は見た目ほどよくない。10体はいずれも成人骨で未成人骨は存在しない。古代人骨8体のうち男性骨は2体、女性骨は3体で、性別不明が3体存在する。中世人骨2体は男性骨である。各人骨の性別、年齢、所属時期、埋葬姿勢、頭位などは表2のとおりである。年齢区分は表3に示した。なお、古代人骨のうち3体は頭蓋のみで、いずれも井戸跡から検出された。

計測方法は、Martin-Saller（1957）によった。

表1 資料数 (Table 1. Number of materials)

	成 人			幼小児	合計
	男性	女性	不明		
古代人骨	2	3	3	0	8
中世人骨	2	0	0	0	2
合計	4	3	3	0	10

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

	年齢区分	年 齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳（第一大白歯萌出直前まで）
	小児	6歳～15歳（第一大白歯萌出から第二大白歯歯根完成まで）
	成年	16歳～20歳（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成人	壮年	21歳～39歳（40歳未満）
	熟年	40歳～59歳（60歳未満）
	老年	60歳以上

注)成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(松下、1996)を参照されたい。

所 見

I 人骨の検出状況と埋葬姿勢

《I区》

A-10003 (男性・熟年) (中世人骨)

埋葬遺構は土坑墓で、墓坑の平面プランは隅丸長方形である。埋葬姿勢は仰臥で、頭位はほぼ南東である。人骨の遺存量は少ない。残存していたのは、頭蓋、左側の上腕骨、左側の前腕の骨、両側的大腿骨、右側の脛骨、左側の腓骨である。上腕骨と前腕の骨、腓骨は骨体の一部のみで、ほとんど泥化しており、痕跡的に確認できたにすぎない。頭蓋は左を下にした状態で検出された。右側の膝関節は「く」の字状に緩く曲げられている。



A-10003 検出状況

この程度の屈曲は、埋葬時に意識的に曲げられたというより、死亡時に被葬者がこの程度に膝関節を屈曲していたと思われ、その状態を保ったまま埋葬されたと考えても差し支えないと思われる。また、大腿骨は床から少し浮いており、大腿骨の下には埋土が入っていることから、膝関節が「く」の字状に曲がり、膝関節付近が浮いた状態になっていたものと思われる。大腿骨の下に埋土が確認されたということは、木棺はなかったということを示唆している。本例は木棺を持たない直葬である。

副葬品として頭の右側に完形の白磁の碗が1個置いてあった。この白磁を安置するために頭蓋は左側に除けられている。本来頭蓋があるべき位置に白磁が安置されていることから、この副葬品を意識的に示威していることがうかがえる。人骨の時期は副葬品から12世紀の中世と推測されている。

A-10170 (性別・年齢不明) (古代人骨)

遺構を検出できなかった。埋葬姿勢や頭位は不明である。人骨の遺存状態はかなり悪い。残存していたのは、頭蓋、骨種類不明の四肢骨の破片のみである。頭蓋や四肢骨の小片の位置が埋葬状態を示しているとは思えないこと、墓坑を検出することができないこと、人骨の周辺から多数の土器片が見つかることから、土器などの廃棄場所に、人体の一部が遺棄されたと思われる。所属時代は9世紀の古代と推測されている。



A-10170 検出状況

B-10045 (性別・年齢不明) (古代人骨)

埋葬遺構は土坑墓で、墓坑の平面プランは長方形である。埋葬姿勢は仰臥と思われ、頭位はほぼ北である。人骨の遺存状態は悪い。残存していたのは四肢長骨1本のみである。取り上げて観察してみ

たが、圧平されており、骨種を同定することができない。

骨の大きさが不明なので、性別を推定することができない。土坑墓の長径が約156cm程度なので、膝関節を完全に伸展した状態では納めることができなかったと思われ、膝関節はやや屈曲していた可能性がある。

副葬品は頭部の位置から土師皿が1枚出土した。時代は9世紀の古代である。



B-10045 検出状況

《Ⅱ区》

20100（男性・年齢不明）（古代人骨）

埋葬遺構は土坑墓で、墓坑の平面プランは隅丸長方形である。埋葬姿勢は仰臥と思われ、頭位はほぼ北である。人骨の遺存状態はきわめて悪い。残存していたのは頭蓋、右側上腕骨、左右の大腿骨のみである。頭蓋は左側を下にした状態であった。上腕骨はほとんど痕跡的で、取り上げることはできなかった。大腿骨は両側の骨体が残存していたが、右側の方が遺存状態はよい。右側骨体は



20100 検出状況

遠位部と近位部での高低差がなく、水平状態で検出されたが、左側骨体は遠位部が高く、近位部が低く、骨体が傾斜した状態で検出された。このことから膝関節は緩く曲げられていたようであるが、この程度の屈曲は、埋葬者が意識的に曲げたというよりは、死亡した時点での自然な屈曲とみられる。

墓坑は長く、長径は約220cmもあり、幅は広いところで約78cm程度である。頭蓋の右側には完形の土師皿2枚と黒色土器が1点副葬されていた。性別は不明である。所属時期は副葬品から10世紀～11世紀の古代と推測されている。

《Ⅲ区》

1057（性別・年齢不明）（中世人骨）

埋葬遺構は土坑墓で、平面プランは細長い長方形である。埋葬姿勢は仰臥で、頭位は北東である。残存していたのは頭蓋、左側上腕骨、左側寛骨と両側の大腿骨、脛骨、腓骨である。頭蓋の保存状態は著しく悪く、顔面頭蓋は遺存していなかった。左側上腕骨の保存状態も悪く、ほとんど痕跡的である。また、左側寛骨も保存状態が悪く、取り上げることはできなかった。

頭蓋は床から約8cm上から、顔面を正面に向けた状態で検出された。左側の肘関節の様態は、前腕の骨が遺存していなかったため、不明である。下肢骨の保存状態は良好で、膝関節を強屈して、立膝状態で検出された。膝部分は、発掘調査時に削平されている。

埋葬姿勢は、仰臥の立膝であるが、頭蓋は床から約8cm高い場所にある。頭蓋の下に土を盛り、その上に頭蓋を乗せて埋葬(安置)しており、単に枕を作って、顔を起こしたものととは違っている。なお、副葬品は存在しない。



1057 検出状況

30299 (性別・年齢不明) (古代人骨)

埋葬遺構は土坑墓で、平面プランは長径約175cm、幅約45cmの細長い長方形である。残存していたのは頭蓋と四肢骨の一部のみで、頭蓋冠が頂部を下にした状態で検出された。

埋葬姿勢は不明であるが、墓坑が細長いことから膝は伸展していたと思われる。頭位はほぼ北である。人骨の所属時期は9世紀と推測されている。



30299 検出状況

30450 (男性・壮年) (古代人骨)

人骨が溝跡の埋土から出土した。残存していたのは頭蓋と四肢骨の骨片のみである。前頭骨を含む顔面骨と後頭骨が重なった状態で検出された。顔面は上を向いていたが、遺構検出の際に顔面を削平されている。左側側頭骨が、この頭蓋から約1m離れた位置から出土した。四肢骨片は頭蓋の近くから出土したが、遺存状態は著しく悪く、骨種の同定ができない。人骨の出土状況は埋葬状態を保っていない。この近辺で死亡し、放置された人(庶民)の遺骨の一部が溝に投げ込まれたと思われる。人骨の所属時期は9世紀と推測されている。



30450 検出状況

この遺構は井戸跡である。埋土から3個の頭蓋が検出された。頭蓋が検出された位置には高低差があり、一番高位にある頭蓋を1号人骨(30575-1)、次いで2号人骨(30575-2)、最も下位から検出されたを3号人骨(30575-3)とした。

30575

この遺構は井戸跡である。埋土から3個の頭蓋が検出された。頭蓋が検出された位置には高低差があり、一番高位にある頭蓋を1号人骨(30575-1)、次いで2号人骨(30575-2)、最も下位から検出されたを3号人骨(30575-3)とした。

1号人骨(頭蓋)は、左を下にした状態で、井戸跡の埋土の上層から出土した。残存していたのは脳頭蓋のみで顔面頭蓋は欠損していた。

2号人骨(頭蓋)は頭蓋が据え置かれた状態で、井戸のほぼ中央から検出され、顔面はほぼ北東を向いていた。鼻根部も残存していたが、土圧によって上顎骨が潰れており、保存状態は悪い。上顎には歯が釘植していた。下顎骨は遺存していない。

3号人骨（頭蓋）は井戸の壁に近い場所から検出された。右の側頭部を下にした状態で検出されたが、顔面頭蓋は遺存していない。

これら3個の頭蓋は、その出土状況から、この近辺で死亡し、放置された遺体が骨になった後に、骨が散逸しつつある状況時に残っていた遺骨のうち頭蓋のみを、井戸が埋められたあとにできた窪みに入れて、土をかぶせ、埋葬（処理）したものと思われる。



30575 検出状況



30575-1 検出状況



30575-2 検出状況



30575-3 検出状況

II 人骨の形質

骨の計測値は文末に一括して掲げた。

《I区》

A - 10003（男性・熟年）（中世人骨）

現場では、頭蓋、左側の上腕骨、左側の前腕の骨、両側的大腿骨、右側の脛骨、左側の腓骨を確認したが、取り上げることができたのは頭蓋、大腿骨、脛骨のみである。

1. 頭蓋

後頭骨後頭鱗の一部と、ラムダ縫合周辺から右側側頭骨の一部が残存していた。保存状態は悪く、骨壁はもろい。外後頭隆起の発達は良好である。乳様突起の幅は広く、大きい。外耳道の観察はできない。

縫合は、三主縫合のうち矢状縫合とラムダ縫合の一部が観察できた。内板は矢状縫合とラムダ縫合とも完全に癒合しており、外板は矢状縫合とラムダ縫合ともに癒合が進んでいるものの開離している。

2. 歯

遊離歯が残存していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

／／／／／／／／／／	／ 2 3 ／／／／／／
／／／／／／／／／／	／／／／／ 5 ／／／／

〔／：不明(破損)、番号は歯種〕

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯〕

咬耗度は Broca の3度(咬耗が象牙質まで及ぶ)である。歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

①大腿骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は悪く、表面は剥離しており、充填した土によって形が保たれている状態である。粗線の観察はできなかったが、骨体両側面の後方への発達は良好である。

②脛骨

右側の骨体が残存していたが、保存状態は悪い。ヒラメ筋の発達や骨体の大きさ、断面形の観察はできなかった。

4. 性別・年齢

性別は、外後頭隆起の発達が良好で、乳様突起は幅も広くて大きいので、男性と推定した。年齢は、矢状縫合とラムダ縫合の内板は完全に癒合し、外板は癒合が進んでいるものの開離していることから熟年と推定した。

A - 10170 (性別・年齢不明)(古代人骨)

頭蓋と骨片が残存していたにすぎない。骨片は部位(骨種)不明である。

1. 頭蓋

頭蓋片と右側側頭骨が残存していた。保存状態は悪い。乳様突起や外耳道の観察はできなかった。

2. 歯

遊離歯冠片が2個残存していた。下顎右側の側切歯と上顎右側の犬歯と思われるが、ともに唇側のエナメル質のみが遺存していたにすぎない。

3. 性別・年齢

性別、年齢ともに推定できる部位が残存していないので、不明である。

B - 10045 (性別・年齢不明)(古代人骨)

骨の検出位置から、残存していたのは大腿骨か、脛骨と推定されるが、保存状態がきわめて悪く、骨種も部位も不明である。また、性別、年齢は不明である。

《Ⅱ区》

20100(男性・年齢不明)(古代人骨)

頭蓋と右側上腕骨、両側的大腿骨が残存していた。

1. 頭蓋

前頭骨中央部と右側側頭骨、後頭骨の一部が残存していた。保存状態はきわめて悪い。外後頭隆起の発達は良好で、棘状に隆起している。乳様突起の観察はできなかった。右側の外耳道が観察できたが、骨腫は認められない。縫合は観察できなかった。

2. 歯

遊離歯が残存していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

／／／／／／／／／ 1	1	／／／／ 5	／／／
／／／ 5 4	／／／	／／ 3	／／／／／／／

〔／：不明(破損)、番号は歯種〕

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯〕

咬耗度は Broca の3度(咬耗が象牙質まで及ぶ)である。歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

①大腿骨

左右の骨体が残存していたが、保存状態はきわめて悪く、土の充填によって形が保たれている状態で、ほとんど骨片状態である。粗線の観察はできなかったが、骨体両側面の後方への発達は悪そうである。

4. 性別・年齢

性別は、外後頭隆起の発達が良好なことや、歯がやや大きいことから男性と推定した。年齢は、推定できる部位が残存していないので不明である。

《Ⅲ区》

1057(性別・年齢不明)(中世人骨)

現場では、頭蓋、左側上腕骨、左側寛骨と両側的大腿骨、脛骨、腓骨を確認したが、取り上げることができたのは頭蓋と大腿骨、脛骨、腓骨のみである。

1. 頭蓋

保存状態はきわめて悪く、ほとんど痕跡状態で、取り上げが可能だったのは右側側頭骨周辺のみであった。外耳道や縫合の観察はできなかった。

2. 歯

遊離歯が残存していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

／／／／／／／／／	／／／／／／／／／
／ 7	／／／／／／／／／

〔／：不明(破損)、番号は歯種〕

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯〕

咬耗度は Broca の2度(咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ)である。

3. 四肢骨

①大腿骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は悪く、表面は剥離している。骨体はやや大きい。粗線や骨体両側面の後方への発達が悪い。殿筋粗面はやや発達しており、骨体上部は扁平である。

計測値は、骨体中央矢状径が(26) mm(左)、横径は(27) mm(左)で、骨体中央断面示数は(96.30)(左)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達が悪い。骨体中央周は(85) mm(左)で、骨体はそれほど大きいものではない。また、骨体上横径は34mm(左)、骨体上矢状径は22mm(左)で、上骨体断面示数は64.71(左)となり、骨体上部はかなり扁平である。

②脛骨

両側の骨体遠位部が残存していた。表面は剥離しており保存状態は悪い。骨体はやや太い。ヒラメ筋線の発達程度や骨体の断面形は不明である。計測もできなかった。

③腓骨

右側の骨体遠位部が残存していた。保存状態はきわめて悪い。骨体の大きさや骨間縁の発達は不明である。

4. 性別・年齢

性別は、大腿骨体はそれほど細いものではなく、脛骨体はやや大きいことから、男性と推定した。性別は、推定できる部位が残存していないので不明である。

30299(性別・年齢不明)(古代人骨)

残存していたのは頭蓋と四肢骨の一部にすぎない。四肢骨片は大腿骨体か、脛骨体の一部と推定されるが、保存状態がきわめて悪く、同定できない。性別、年齢は推定できる部位が残存していないので不明である。

30450(男性・壮年)(古代人骨)

頭蓋と四肢骨片が残存していたにすぎない。

1. 頭蓋

前頭骨と左側側頭骨、後頭骨が残存していた。保存状態は悪い。最上項線は明瞭で、外後頭隆起の発達は良好である。乳様突起は観察できなかった。左側の外耳道の観察ができたが、骨腫は認められない。縫合は、冠状縫合のみが観察できた。冠状縫合は内外両板とも開離している。

2. 歯

上顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

⑧ ⑦ / / / / / / / / / / / 6 ⑦ ⑧ [○: 歯槽開存 / : 不明(破損)、番号は歯種]

[1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小臼歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯]

咬耗度は Broca の1度(咬耗がエナメル質のみ)で、咬耗は弱い。歯の咬合形式は不明である。

3. 性別・年齢

性別は、最上項線が明瞭で、外後頭隆起の発達も良好であることから、男性と推定した。年齢は、冠状縫合の内外両板とも開離していることから、壮年と考えられる。

30575-1 (女性・熟年) (古代人骨)

頭蓋と歯のみが残存していた。

1. 頭蓋

前頭骨の右側眉上弓から右側側頭骨にかけて欠損しているものの比較的保存状態は良好であるが、骨壁はかなり薄く、脆弱である。土圧によって左右方向に圧力が加わり変形しているが、観察によれば、頭型は長頭型に傾いていたようである。前頭結節の発達良好で、眉上弓の隆起は弱い。外後頭隆起の発達は弱く、乳様突起も小さい。両側の外耳道の観察ができたが、骨腫は左右ともに認められない。

縫合は、三主縫合の内外両板の観察ができた。内板はラムダ縫合の一部がわずかに開離しているものの、冠状縫合と矢状縫合は完全に癒合しており、外板は三主縫合とも癒合が進んでいるが、開離している。

2. 歯

遊離歯が残存していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

／／／／／／／／／	／／／ 4 ／／／／
／／／／／／／／／	／ 2 ／／／／／／／

〔／：不明(破損)、番号は歯種〕

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯〕

咬耗度は Broca の2度(咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ)である。歯の咬合形式は不明である。

3. 性別・年齢

性別は、前頭結節の発達が良好で、眉上弓の隆起や外後頭隆起の発達は弱く、乳様突起も小さいことから女性と推定した。年齢は、ラムダ縫合の内板の一部がわずかに開離しているものの、冠状縫合と矢状縫合は完全に癒合しており、外板は三主縫合とも癒合が進んでいるが、開離していることから、熟年と推定した。

30575-2 (女性・壮年) (古代人骨)

頭蓋と歯のみが残存していた。

1. 頭蓋

前頭骨の左側半分から左側頭頂骨と後頭骨にかけて残存していた。保存状態は悪く、充填した土によって形状が保たれている状態である。骨壁は脆弱である。土圧によって上下方向に変形が見られる。前頭鱗は膨隆しており、前頭結節の発達は良好で、眉上弓の隆起は弱い。鼻根部は狭く扁平である。下顎骨は残存していない。縫合は、冠状縫合と矢状縫合が観察できた。両縫合の内外両板はともに開離している。

2. 歯

上顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8 7 6 5 4 3 ②／	／／／／ ⑤ 6 7 ／
----------------	--------------

〔○：歯槽開存 ／：不明(破損)、番号は歯種〕

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯〕

咬耗度は Broca の1度(咬耗がエナメル質のみ)で、咬耗は弱い。歯の咬合形式は不明である。

3. 性別・年齢

性別は、前頭結節の発達が良好で、眉上弓の隆起も弱いことから女性と推定した。年齢は、冠状縫合と矢状縫合の内外両板が開離していることから、壮年と思われる。

30575-3（女性・壮年）（古代人骨）

頭蓋のみが残存していた。

1. 頭蓋

右側頭頂骨から後頭骨にかけてと、前頭骨と左側頭頂骨の一部、左側の側頭骨が残存していた。顔面頭蓋は残存していない。骨壁はやや厚いが、脆弱でもろい。外後頭隆起の発達は悪い。乳様突起はわずかに大きい。縫合は、三主縫合が部分的に観察できた。三主縫合の内外両板は開離している。

2. 性別・年齢

性別は、外後頭隆起の発達が悪いことから女性と推定した。年齢は、三主縫合の内外両板が開離していることから、壮年と思われる。

考 察

まず、埋葬遺構と埋葬姿勢について検討してみた。8体の古代人骨のうち、埋葬施設を推測・確認できた遺構は3基（B-10045、20100、30299）存在するが、3基とも土坑墓と推測されている。また、埋葬姿勢を推測できるものが2体（B-10045、20100）あるが、2体とも仰臥である。膝関節の姿勢を推測できるものが3体（B-10045、20100、30299）ある。B-10045（性別不明）は土坑墓の長径が約156cm程度なので、被葬者が男性であれば、膝関節はやや屈曲していた可能性がある。20100（男）の墓坑は長径が約220cmもあることから膝関節は伸展状態だったと推測される。30299（性別不明）の埋葬姿勢は不明であるが、墓坑が細長いことから膝関節は伸展していたと思われる。すなわち、2体については膝関節は伸展状態だったと推測される。

一方、中世人骨は2体あるが、2遺構とも埋葬遺構は土坑墓で、埋葬姿勢は仰臥である。A-10003（男）は膝関節をほぼ伸展していたが、1057（男）では、膝を立てた状態（立膝＝屈葬）であった。またこの例は、頭蓋が死床から約8cmも高い場所にある。頭蓋の下に土を盛り、その上に頭蓋を乗せたような出土状況で、不自然感は否めない。埋葬時に首から頭部にかけての部分は立っていた（反っていた）のかもしれない。

次いで、計測ができた中世人の男性大腿骨について、熊本県内の資料と比較してみた。表4は大腿骨の計測値・示数値の比較表である。1057人骨の大腿骨の骨体中央周は（85）mmで、二本木春日11次S-021の80mm、花岡木崎S-19の83mmよりは大きく、二本木1AS-07の97mm、花岡木崎S-12の95mm、二本木53次7号土坑墓人骨の92mm、二本木市電敷地S-004の89mmよりは小さく、二本木合同庁舎SK-064-FE-1と二本木17次ST004と同値で、大腿骨がやや細い一群（80mm前後）と太い一群（90mm前後）との中間値を示している。1057人骨の大腿骨の骨体中央断面示数は（96.30）で、二本木53次7号土坑墓人骨の78.13、花岡木崎S-19の92.59よりは大きい、二本木1AS-07の134.62、二本木市電敷地S-004の120.00、花岡木崎S-12の114.29、二本木合同庁舎SK-064-FE-1の112.00よりも小さく、二本木春日11次S-021の96.15にほぼ一致し、骨体

両側面の後方への伸展はみられない。しかし、上骨体断面示数は 64.71 で、この値は表 4 では最小値となり、骨体上部はかなり扁平である。すなわち、本中世人(1057)の大腿骨は、大きさとしては大きくも、小さくもない平均的な大きさで、粗線や骨体両側面の発達がみられないことから、大腿四頭筋など大腿部の筋の発達は弱かったようであるが、大腿骨上部には扁平性がみられることから、大腿部の一部の筋はよく発達していたと思われる。

要 約

熊本市中央区春日三丁目に所在する二本木遺跡群第 97 次調査区の 2018(平成 30)年度におこなわれた発掘調査で、古代と中世に属する人骨が出土した。人骨の保存状態は悪かったが、現場で詳細な人類学的観察をおこない、埋葬姿勢や人骨の形質について検討をおこなった。その結果は次のとおりである。

1. 二本木遺跡群第 97 次調査区から出土したのは合計 10 体の人骨で、そのうち 8 体(男 2、女 3 性別不明 3)は古代に、残りの 2 体(男 2)は中世に属する人骨である。
2. 古代人骨 8 体のうち、埋葬状態で検出されたのは 3 体(B-10045・性別不明、20100・男、30299・性別不明)で、1 体(A-1017・性別不明)は遺棄された遺骨の一部、1 体(30450・男)は溝跡から検出された遺骨の一部、残りの 3 体(30575-1・女、30575-2・女、30575-3・女)は井戸跡から出土した頭蓋である。一方、中世人骨 2 体(A-10003・男、1057・男)は土坑墓から埋葬状態で検出された。
3. 埋葬状態で検出された 3 体の古代人骨と 2 体の中世人骨の埋葬遺構はいずれも土坑墓である。埋葬姿勢が推測できた古代人は 2 体、中世人も 2 体あるが、4 体とも仰臥である。膝関節の様態が推測できる古代人は 3 体(B-10045、20100、30299)あるが、2 体は墓坑が長いことから伸展状態だったと推測される。もう 1 体(B-10045・性別不明)は、被葬者が男性であればやや屈曲していたと推測される。一方、中世人 2 体のうち 1 体(A-10003・男)の膝関節は伸展していたが、もう 1 体(1057・男)は膝を立てていた(立膝状態)。
4. 古代人骨 8 体のうち、3 体(A-10170、30299、30450)は 9 世紀に、2 体(B-10045、20100)は 10～11 世紀に、残りの 3 体(30575)は 11 世紀に所属する人骨と推測されている。
5. 古代人骨の保存状態はかなり悪く、形質的特徴を明らかにすることはできなかった。
6. 中世人骨の遺存状態も悪かったが、1 体(1057・男)は大腿骨の計測ができた。骨体中央周は(85) mm(左)で、中世人男性としては普通サイズの大腿骨である。骨体中央矢状径は(26) mm(左)、横径は(27) mm(左)で、骨体中央断面示数は(96.30)(左)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達は悪いが、上骨体断面示数は 64.71(左)となり、骨体上部は扁平である。
7. 溝跡から出土した人骨と土器の捨て場所から検出された人骨および井戸跡から検出された 3 個の頭蓋は、いずれも遺棄された死者の遺骨と推測され、それぞれ古代における遺体処理の実態を物語る貴重な事例である。
8. 井戸跡から検出された古代人骨は、本遺跡のほかに、2 例存在する。1 例は二本木遺跡群第 32 次調査区 L 地点で、1 体の男性骨が検出された。頭蓋のほかに前腕の骨と思われる骨も残存してい

たことから廃棄された井戸跡の窪みを埋葬坑として利用して埋葬したものと推測され、この例は死体が放置されたものでも、遺骨が遺棄されたものでもない。もう1例は二本木遺跡群春日地区第6次調査で検出された井戸跡から出土した。残存していたのは壮年の男性(SE033 No.1)と小児(SE033 No.2)の頭蓋のみであった。おそらく放置され腐敗して骨になった遺体から頭蓋だけを井戸跡に生じた窪みに収め、供養したものと思われる。なお、二本木遺跡群では井戸跡から中世人の頭蓋も検出されている。

10. 今回出土した8体の古代人骨は保存状態が悪く、顔面や四肢骨の特徴や身長値も明らかにすることはできなかったが、1体について頭型を推測することができた。この1体(30575-1、女)の頭型は長頭型に傾いていた。

11. 2体の中世人骨の保存状態も悪く、頭型や顔面の形態、身長値を知ることはできなかったが、1体については大腿骨の計測ができ、中世人の例を追加することができた。この中世人男性大腿骨の大きさは男性としては平均的なサイズで、粗線や骨体両側面の後方への発達が悪かったが、骨体上部はかなり扁平な大腿骨であった。下肢筋を日常的に酷使するような生活は想定できないが、大腿骨の骨体上部が扁平なことから下肢筋の一部だけが特に使われていたようである。

古代・中世では一般庶民が埋葬されたわけではなく、墓に埋葬されたのは一部の上層階級だけである。人骨から人々の生活様態を復元するには、まだ人骨資料が不足している。

謝辞

《擲筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本市文化市民局文化創造部文化財課の皆様方に感謝致します。》

《参考文献》

1. Martin-Saller, 1957: Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1. Gustav Fischer Verlag, Stuttgart: 429-597.
2. 松下真実・他、2012a: 熊本市二本木遺跡群(市電敷地) 出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群6(春日地区第9・10次調査)(熊本県文化財調査報告第274集): 411-423.
3. 松下真実・他、2012b: 熊本市二本木遺跡群(市電敷地) 出土の古代人骨。二本木遺跡群6(春日地区第9・10次調査)(熊本県文化財調査報告第274集): 398-410.
4. 松下真実・他、2012c: 二本木遺跡群(春日地区第6次調査) 出土の古代人骨。二本木遺跡群(春日地区) 5第6次・第14次調査(熊本県文化財調査報告第271集): 140-152.
5. 松下真実・他、2012d: 熊本市二本木遺跡群第40次調査区E地点出土の中世人骨。二本木遺跡群18(熊本市の文化財第18集): 91-96.
6. 松下真実・他、2013a: 熊本市二本木遺跡群第56次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群20(熊本市の文化財第26集): 109-114.
7. 松下真実・他、2013b: 熊本市二本木遺跡群第32次調査区R地点出土の中世人骨。二本木遺跡群21(熊本市の文化財第27集): 225-228.
8. 松下真実、2014a: 熊本県熊本市二本木遺跡群第68次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群24(熊本市の文化財第38集): 96-102.
9. 松下真実・他、2014b: 熊本県玉名市玉名平野条里跡出土の中世人骨。玉名平野条里跡3 両迫間目渡遺跡2 玉名の平城跡(熊本県文化財調査報告299集): 339-343.

10. 松下真実・他、2016a:熊本市新屋敷遺跡出土の古代・近世人骨。新屋敷遺跡6(熊本県文化財調査報告第317集):168-184.
11. 松下真実・他、2016b:熊本市二本木遺跡群第17次調査区出土の中世人骨。熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集第1分冊(熊本市の文化財第61集):22-31.
12. 松下真実・他、2016c:熊本市二本木遺跡群第48次調査区出土の中世人骨。熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集第一平成27年度—第1分冊(熊本市の文化財第61集)(熊本市の文化財第61集):427-432.
13. 松下真実・他、2022:熊本市上代町遺跡群第5次調査区出土の弥生・古代・中世人骨。上代町遺跡群Ⅳ(熊本市の文化財第107集):125-152.
14. 松下真実・他、2024:熊本市二本木遺跡群第114次調査区出土の古代人骨。二本木遺跡群33(熊本市の文化財第113集):90-98
15. 松下真実・他、熊本市二本木遺跡群(田崎工区)出土の古代人骨。(投稿中)
16. 松下真実・他、熊本市二本木遺跡群第104次調査区出土の古代人骨。(投稿中)
17. 松下真実・他、熊本市二本木遺跡群第53次調査区出土の中世人骨。(投稿中)
18. 松下真実・他、熊本市二本木遺跡群ⅠA区出土の中世人骨。(投稿中)
19. 松下孝幸、1980:熊本県興善寺馬場遺跡出土の中世人骨。興善寺Ⅰ(熊本県文化財調査報告第45集):145-159.
20. 松下孝幸、1996:土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査出土の中世・弥生時代人骨。土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集):24-50.
21. 松下孝幸、2001:熊本県深田村灰塚遺跡出土の中世人骨。灰塚遺跡(Ⅱ)(熊本県文化財調査報告第197集):239-245.
22. 松下孝幸、2004:熊本県西合志町船入遺跡出土の中世人骨。船入遺跡(熊本県文化財発掘調査報告第217集):91-97.
23. 松下孝幸、2005:熊本市二本木遺跡群第18次調査出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群Ⅰ—第18次調査区発掘調査報告書—:41-46.
24. 松下孝幸、2006:熊本市大江(学苑住宅)遺跡群出土の平安時代火葬骨。大江遺跡群Ⅱ(熊本県文化財調査報告第231集):80-84.
25. 松下孝幸、2007a:熊本市大江遺跡群第97次調査区出土の平安時代人骨。大江遺跡群Ⅵ(第97次・第106次調査区発掘調査報告書):114-117.
26. 松下孝幸、2007b:熊本市古町遺跡第5次調査区出土の平安時代人骨。熊本市埋蔵文化財調査年報第9号:148-152.
27. 松下孝幸、2007c:熊本市二本木遺跡群第13次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群Ⅱ(二本木遺跡群第13次調査区発掘調査報告書):381-393.
28. 松下孝幸、2007d:熊本市二本木遺跡群第26次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群Ⅲ(二本木遺跡群第26次調査区発掘調査報告書):126-129.
29. 松下孝幸、2007e:熊本市二本木遺跡群第27次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群Ⅳ(二本木遺跡群第27次調査区発掘調査報告書):79-84.
30. 松下孝幸・他、2008a:熊本市二本木遺跡群第28次調査区出土の古代・中世以降人骨。二本木遺跡群Ⅴ〔二本木遺跡群第28次調査区(E・I・K・L・P地点)発掘調査報告書〕〔熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告(2)〕:178-183.
31. 松下孝幸・他、2008b:熊本市神水遺跡群第41次調査区出土の中世人骨(歯)。神水遺跡Ⅹ(第41次調査区発掘調査報告書)(都市計画道路船場・神水線建設に伴う埋蔵文化財調査報告9):103-105.
32. 松下孝幸・他、2009a:熊本市二本木遺跡群第32次調査区L地点出土の古代人骨。二本木遺跡群Ⅷ〔二本木遺跡群第28次調査区(A～D・J・M～O・Q・T地点、第32次調査区(A・C～F・H～J・L・N・P・Q・T地点)発掘調査報告書〕〔熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告(4)〕:185-188.
33. 松下孝幸・他、2009b:熊本市大江遺跡群第111次調査区出土の中世人骨。熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集—平成20年度—:117-124.
34. 松下孝幸・他、2010a:熊本市二本木遺跡群第40次調査区F地点出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群ⅩⅠ(熊

- 本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告(5)：197-201.
35. 松下孝幸・他、2010b：熊本市二本木遺跡群第41次調査区出土の古代人骨。二本木遺跡群ⅩⅡ－二本木遺跡群第41次調査区発掘調査報告書－：127-135.
 36. 松下孝幸・他、2010c：熊本市二本木遺跡群第8次調査区出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群Ⅲ(熊本県文化財調査報告第256集)：221-233.
 37. 松下孝幸・他、2011：熊本市二本木遺跡群第50次調査区出土の古代人骨。二本木遺跡群ⅩⅥ－二本木遺跡群第50次調査区発掘調査報告書－(熊本市の文化財第10集)：67-75.
 38. 松下孝幸・他、2012a：熊本市二本木遺跡群第31次調査区出土の人骨。二本木遺跡群17(熊本市の文化財第17集)：158-162.
 39. 松下孝幸・他、2012b：熊本市二本木遺跡群第49次調査区出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群19－二本木遺跡群第49次調査区発掘調査報告書－(熊本市の文化財第19集)：77-84.
 40. 松下孝幸・他、2012c：熊本市二本木遺跡群(さつま荘跡)出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群6(春日地区第9・10次調査)(熊本県文化財調査報告第274集)：424-435.
 41. 松下孝幸・他、2013a：熊本市新屋敷遺跡出土の古代人骨。新屋敷2(熊本県文化財調査報告書第286集)：140-154.
 42. 松下孝幸・他、2013b：熊本県芦北町花岡古町遺跡出土の中世人骨。花岡古町遺跡(芦北町文化財調査報告書第4集)：184-105.
 43. 松下孝幸・他、2013c：熊本県芦北町花岡木崎遺跡出土の中世人骨。花岡木崎遺跡(芦北町文化財調査報告書第3集)：191-222.
 44. 松下孝幸・他、2013d：熊本県大津町中島宝満鶴・岩坂葉柳遺跡出土の弥生・中世人骨。中島西鶴遺跡・中島宝満鶴遺跡・岩坂葉柳遺跡・岩坂樋ノ口遺跡(迫井手地区経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財調査)(大津町文化財報告第10集)：291-297.
 45. 松下孝幸・他、2016：熊本市大江63次調査区出土の平安時代火葬骨。大江遺跡群12(熊本市の文化財第60集)：71-81.
 46. 松下孝幸・他、2022：熊本市江津湖遺跡群出土の平安時代火葬骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第17号：55-61
 47. 松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群春日地区第11次調査区出土の古代・中世人骨。(投稿中)
 48. 松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群春日地区第11次調査区3区出土の古代人骨。(投稿中)
 49. 松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群春日地区第13次調査区4区出土の古代人骨。(投稿中)
 50. 松下孝幸・他、熊本市渡鹿遺跡群第7次調査区出土の中世人骨。(投稿中)
 51. 故松野茂・他、1970：熊本県宇土市緑川の中世時代早期の遺跡出土の頭骨について。熊本医学会雑誌、44：999-1016.
 52. 永井昌文、1965：荒尾市浄業寺中世人骨について。浄業寺と小代氏(荒尾市文化財報告第1集)：51-53.
 53. 内藤芳篤、1973：人骨。尾窪－熊本県下益城郡城南町尾窪中世墳墓群の調査(熊本県文化財調査報告12)：62-78.
 54. 内藤芳篤、1975：塚原中世墳墓・丸尾5号墳出土の人骨について。塚原(熊本県文化財調査報告第16集)：317-322.
 55. 内藤芳篤・他、1978：杉谷遺跡出土の中世人骨。大園山・杉谷遺跡(熊本県荒尾市文化財調査報告第3集)：116-122.
 56. 熊本市教育委員会、2021：二本木遺跡群28(熊本市の文化財第98集)(－第97次調査－熊本駅ビル建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)

* Masami MATSUSHITA (特定非営利活動法人人類学的研究機構、人類学ミュージアム)

** Takayuki MATSUSHITA (特定非営利活動法人人類学的研究機構、人類学ミュージアム)

表2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

区	遺構・人骨番号	性別	年齢	頭位	時期	時代	遺構	埋葬姿勢	膝関節	副葬品
I区	A-10003	男	熟年	南東	12世紀	中世	土坑墓	仰臥	伸展	白磁碗1
I区	A-10170	不明	不明	—	9世紀	古代	遺構なし(註1)	—	—	—
I区	B-10045	不明	不明	北	10～11世紀	古代	土坑墓	仰臥	やや屈曲か(註2)	土師皿1
II区	20100	男	不明	北	10～11世紀	古代	土坑墓	仰臥	伸展	土師皿2、黒色土器1
III区	1057	男	不明	北東	不明	中世?	土坑墓	仰臥	立膝	なし
III区	30299	不明	不明	北	9世紀	古代	土坑墓	不明	伸展(註3)	なし
III区	30450	男	壮年	—	9世紀	古代	溝跡	—	—	—
III区	30575-1	女	熟年	—	11世紀	古代	井戸跡	—	—	—
III区	30575-2	女	壮年	—	11世紀	古代	井戸跡	—	—	—
III区	30575-3	女	壮年	—	11世紀	古代	井戸跡	—	—	—

註1：土器の廃棄場所に遺棄したと思われる。

註2：墓坑の長径が約156cmしかないので、膝はやや屈曲していた可能性が強い。

註3：墓坑の長径が約175cmもあることから膝は伸展していたと推測される。

表4 大腿骨比較表 (男性、mm) (Table 4. Comparison of measurements and indices of right femora)

	二本木97次		花岡木崎		二本木 春日11次		二本木 市電敷地		二本木 合同庁舎		二本木17次		二本木53次		二本木1A	
	中世人 熊本県 熊本市	(左)	S-12 (右)	S-19 (左)	中世人 熊本県 熊本市	(右)	中世人 熊本県 熊本市 (松下・他)	S-004 (左)	中世人 熊本県 熊本市 (松下・他)	SK-064-FE-1 (左)	中世人 熊本県 熊本市 (松下・他)	ST004 (右)	中世人 熊本県 熊本市 (松下・他)	7号土坑墓 (右)	中世人 熊本県 熊本市 (松下・他)	S-07 (左)
6. 骨体中央矢状径	1057 (26)		32	25	25		30		28		26		25		35	
7. 骨体中央横径	(27)		28	27	26		25		25		29		32		26	
8. 骨体中央周	(85)		95	83	80		89		85		85		92		97	
9. 骨体上横径	34		33	30	33		-		30		31		31		-	
10. 骨体上矢状径	22		25	22	22		-		23		22		25		-	
6/7 骨体中央断面示数	(96.30)		114.29	92.59	96.15		120.00		112.00		89.66		78.13		134.62	
10/9 上骨体断面示数	64.71		75.76	73.33	66.67		-		76.67		70.97		80.65		-	

():推定値

表5 大腿骨 (mm) (Table 5. Femur)

		二本木97次	
		1057	
		男性	
		中世人	
		左	
1.	最大長	-	
2.	自然位全長	-	
3.	最大転子長	-	
4.	自然位転子長	-	
6.	骨体中央矢状径	(26)	
7.	骨体中央横径	(27)	
8.	骨体中央周	(85)	
9.	骨体上横径	34	
10.	骨体上矢状径	22	
15.	頸垂直径	-	
16.	頸矢状径	-	
17.	頸周	-	
18.	頭垂直径	-	
19.	頭横径	-	
20.	頭周	-	
21.	上顆幅	-	
8/2	長厚示数	-	
6/7	骨体中央断面示数	(96.30)	
10/9	上骨体断面示数	64.71	

():推定値



頭蓋 (The skull)



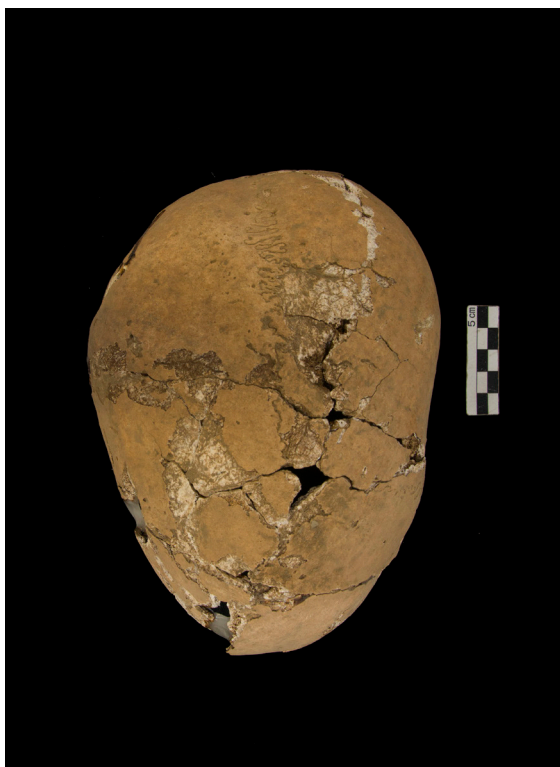
大腿骨 (The femur)



歯 (The teeth)

二本木 97 次 20100 号人骨 (男性・年齢不明)

(The skeleton No.20100 from the 97th excavation of the Nihongi sites,male unknown age)



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



頭蓋側面 (Lateral view of the skull)

二本木 97 次 30575-1 号人骨 (女性・熟年)

(The skeleton No.30575-1 from the 97th excavation of the Nihongi sites,mature female)



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)

二本木 97 次 30575-2 号人骨 (女性・壮年)

(The skeleton No.30575-2 from the 97th excavation of the Nihongi sites,young adult female)



頭蓋上面 (Superior view of the skull)

二本木 97 次 30575-3 号人骨 (女性・壮年)

(The skeleton No.30575-3 from the 97th excavation of the Nihongi sites,young adult female)



下肢骨 (Bones of the lower limb)

二本木 97 次 1057(男性・壮年)

(The skeleton No.1057 from the 97th excavation of the Nihongi sites,male unknown age)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)

二本木 97 次 30450(男性・壮年)

(The skeleton No.30450 from the 97th excavation of the Nihongi sites,young adult male)



後頭骨・左側側頭骨 (The skull)